

2025 年度 事業報告

はじめに

富士山世界遺産国民会議は、富士山の普遍的価値を未来へ継承するため、今期も保全・啓発活動を多角的に展開しました。

本年度は、静岡県・山梨県の両県において、富士登山の安全対策・環境保全に向けた規制運用が大きく前進しました。静岡県側では、今年度の五合目通過者数が約 10 万 3 千人となり、入山料収入は約 4 億円に達しました。これらは、規制対応費や安全登山のための諸経費として活用される予定です。一方、山梨県側においても、五合目通過者数は昨年同程度の約 14 万人となり、通行料収入は昨年の約 3 億円弱から約 6 億円弱へと大幅に増加しました。これらの収入は、五合目規制の整備費、安全登山に関する人件費・経費、下山道シェルター整備等に充当される方針です。

昨年の登山者数は、山梨県・静岡県の 4 ルートで合計 20 万 5,100 人となり、前年とほぼ同水準でした。今年度に向けては、山梨県と静岡県で開山日を統一する検討も進められています。

また、8 月には NPO のスタッフによる恒例の富士登山を実施しました。今回もノベルティ配布などでお世話になっている山小屋さんにご挨拶をしながら登山。今年も見事なご来光を拝むことができました。

「ふじさんゼロゴミアクション」では、計 12 回の清掃活動を実施し、1,000kg 以上のゴミを回収しました。企業による清掃活動も行われ、新たな清掃活動の可能性に気づく機会ともなりました。本活動を通じて、今年も清掃活動を軸とした環境保全の重要性について、引き続き啓蒙して参ります。

さらに、5 月 27 日付で認定更新の承認をいただきました。これもひとえに関係者の多大なご協力の賜物であり、ここにあらためて心より感謝申し上げます。

富士山世界遺産国民会議は、今後も世界文化遺産としての富士山を次世代へと引き継ぐための活動を、自治体・関係団体と連携しながら推進してまいります。

目次

① 各種委員会の運営	2
② オブザーバー出席した各種会議	2
③ ふじさんゼロゴミアクション	3
④ PR/啓発活動および後援事業	7
⑤ 2025 年富士山登山について総括	10
⑥ 富士山・富士五湖周辺プロジェクトについて	11
⑦ 富士山基金事業と富士山基金への寄付	12

① 各種委員会の運営

1) 運営委員会

日時 1月14日(火)、3月4日(火)、5月13日(火)、7月14日(月)、9月22日(月) 計5回
場所 富士山世界遺国民会議事務局
内容 活動内容の検討と活動報告

2) 評議員会

日時 2月4日(火)/第110回、4月14日(月)/第111回、6月16日(月)/第112回、
8月25日(月)/第113回、10月22日(水)/第114回、12月15日(月)/第115回
計6回
場所 キャピタル・アドバイザー株式会社社会議室

② オブザーバー出席した各種会議

1) 第24回富士山世界文化遺産学術委員会

日時 2月12日(水)14時00分～15時30分 場所 都道府県会館

2) 第25回富士山世界文化遺産学術委員会

日時 11月28日(金)14時00分～15時30分 場所 砂防会館

3) 山梨県立富士山世界遺産センター機能強化検討委員会

日時 第1回:10月21日(火)、第2回:11月14日(金)、第3回:12月15日(月) 計3回

場所 オンライン

内容 3回の会合を通じて、各委員から提案された内容を元に、山梨県側より提言内容が提示され、それに基づき最終報告がまとめられる予定です。具体的には、来訪者数が少ない南館の利用価値向上、増加傾向にある外国人来訪者への対応方法、観察会・体験教室・企画展など自主事業のさらなる充実などです。

③ ふじさんゼロゴミアクション

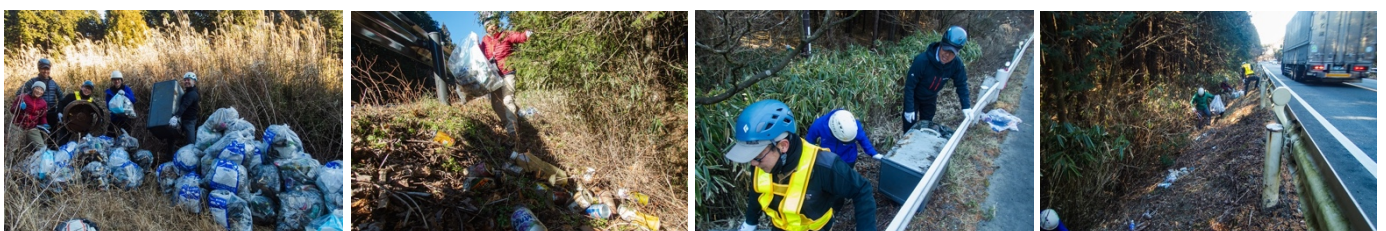
ふじさんゼロゴミアクションとは、富士山と周辺のエリアで抱えるゴミ問題を解決するプロジェクトです。「富士山からゴミをゼロにする。ゴミが捨てられない環境をつくる」ことを目指し、活動しています。富士山ガイドやエコツアー事業者を中心に構成され、富士山世界遺産国民会議が継続的に支援をしています。

文筆: マウントフジトレイル 太田安彦

[1月30日]

静岡県富士市の国道469号線沿いを清掃しました。

回収したゴミは、可燃や不燃、ビン、カン、粗大(冷蔵庫)の合計260kg。観光客が県外から往来したり、物流の道としても利用されていたり、多くの人が行き交う場所です。2024年4月にも、この周辺を清掃していますが、10ヶ月あまりで、これだけの量が捨てられていて、とても残念です…。



[2月19日]

静岡県富士市の国道469号線沿いを清掃しました。

回収したゴミは、可燃や不燃、ビン、カン、粗大など、合計122kg。

今回も通称「しょんボトル」が何本も捨てられていました。(焼却炉に水分を持ち込まないように取り出すのですが、とても不衛生で、しかもかなりの悪臭です！)

[今回の清掃に参加した事業者]

@bushmans_nature_school : Bushmans Nature School

@sports_train_classic : Sports Train in Forest Camp

@funabou : 富士山ガイド

@mftc_official : マウントフジトレイルクラブ

@fujisan_world_heritage : NPO 富士山会議



[3月11日]

静岡県裾野市の国道469号線沿いを清掃しました。可燃や不燃、粗大など合計53.9kgのゴミを回収しました。



[4月16日]

R469 沿い十里木高原周辺を、各分野で活躍するプロフェッショナル・ガイド仲間が集い、月2~3回富士山周辺の清掃活動をしています。缶、ビン、コンビニのゴミ、産業廃棄物、おしっこが入ったペットボトル、盗んだと思われる銅線のゴムカバーの大量投棄など、先月清掃した場所にもう新たにゴミが投げ捨てられている現実に複雑な思いがこみ上げてきます。街道沿いは、車からのポイ捨てゴミがとても多く、悲しい気持ちになります。

中でも「尿入りペットボトル」は深刻な問題だと感じます。物流の便利化の影に、トイレにすら立ち寄れない長距離ドライバーの就労環境の厳しさがあると思うと、物流に関わる人たちの働き方改革を唱えると同時に、全ての人が消費者としてどう在るべきかを考えていかないと解決に向かっていけない、と切に感じました。

見上げれば美しい富士山、足元には悲しい現実があります。



国道469号線



[6月23日]

6月23日に富士吉田市の山間部で、清掃活動を実施しました。今回は、当NPO・小田理事長も参加。可燃や不燃、廃タイヤなど、合計161kgのゴミを回収しました。



[10月18日]

小田全宏理事長関係の企業様で、鳥居地峠を清掃しました。

可燃 12.3kg / ビン 49.8 kg / かん 18.5 kg / 不燃ゴミ 32.9 kg / 粗大ごみ 122.1 kg : 合計 235.6 kg



[10月30日]

樹海エリアの国道139線沿いの清掃をしました。

可燃 21.4kg / 不燃 0.5kg / 金属 13.6kg / ガラス 6.7kg : 合計 42.2kg





[11月15日] @国道139号線沿い

毎年恒例、国際グループとOAGグループ合同の「富士山麓樹海周辺の清掃活動」が行われました。清掃後は、富士山の生態系を学ぶ自然学習を織り混ぜ、参加した方々の充実度も高いイベントとなり、この活動意義をあらためて感じた機会となりました。東京からバス移動中の各人自己紹介でも「ずっと参加したかった」「夫婦（家族）で参加しています」など、皆さんの積極姿勢に驚かされるとともに、今後さらにこの活動が広まるような啓蒙活動を継続しなければ、と気付かされるイベントとなりました。

可燃 0.1 kg / 金属 3.65kg / ビン 1.61kg / ガラス 5.97kg / カン・不燃 55.06kg:合計 66.39kg



[11月19日] @国道139号線沿い

青木ヶ原樹海エリアの国道139号線沿いを清掃しました。

可燃 34.2kg / 不燃 22.3kg :合計 56.5kg



[11月26日] @国道139号線沿い

青木ヶ原樹海エリアの国道139号線沿いを清掃しました。

可燃ゴミ 13.7kg / 缶・鉄 9.9kg / ガラス 3.8kg / その他ゴミ 23.2kg / タイヤ 81kg : 合計 131.2kg



[12月10日]

静岡県富士市の富士裾野線沿いを清掃しました。

可燃ゴミ 43kg / 缶 19.5kg / ビン 5.7kg / ガラス 2.3kg / 不燃 18.7kg : 合計 89.2kg



[12月17日]

前回に続いて、静岡県富士市の富士裾野線沿いを清掃しました。

可燃ゴミ 38.35kg / 缶 7.33kg / ビン 2.45kg / 粗大ゴミ 8.91kg / 不燃ゴミ 6.51kg / その他(乾電池) 0.16 : 合計 63.71kg





【参考】世界のゴミ排出量の多い国 ワースト10 *出典:OECD(2018年)

単位:1,000トン

- 1位 アメリカ(265,225)
- 2位 中国(220,403)
- 3位 ドイツ(50,260)
- 4位 日本(42,716)
- 5位 フランス(35,889)
- 6位 トルコ(34,553)
- 7位 イギリス(30,786)
- 8位 イタリア(30,165)
- 9位 スペイン(22,229)
- 10位 韓国(20,453)

④ PR/啓発活動および後援事業

●「富士山の日」フェスタ2025

2月23日(日)富士山の日に、静岡県にある御殿場高原ホテルにて「富士山の日」フェスタ2025が開催されました。この日は晴天に恵まれ、富岳太鼓による熱気ある演奏で会場が温まった会は、両県(静岡県・山梨県)知事のあいさつを始め、前静岡県富士山世界遺産センター館長・遠山敦子先生による基調講演や、SPAC-静岡県舞台芸術センターの演劇、富士山静岡交響楽団コンサートなど、終始見応えのあるイベントでした。



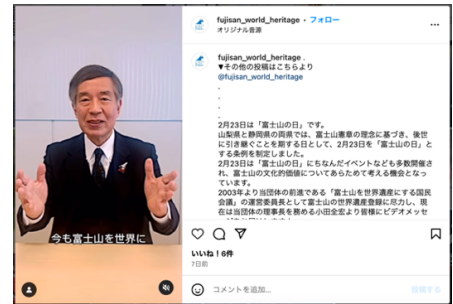
会場では、日頃富士山を守っている人たちへのエールも込めて、ノベルティを制作・配布しました。

- ① 啓蒙メッセージを盛り込んだエコバッグ
- ② 富士山・桜・だるまをモチーフにした金太郎飴
- ③ インスタグラム誘致カード



●「富士山の日」ビデオメッセージ

2月23日(日)の富士山の日、NPO 富士山会議の新理事長 小田全宏氏によるビデオメッセージを発信しました。



●登山シーズン向けノベルティ制作

今夏の登山シーズンに向けて、啓蒙メッセージも含めたノベルティを制作して、吉田口登山道七〜八号目山小屋(16軒)・マウントフジトレイルステーション(御殿場口新五号目施設)・大文司(旧登山道麓施設)などで配布する予定で、6月上旬に現場へお届けしました。

今年度はメッセージ性の高いノベルティグッズを意識し、行動食にもなるラムネには、富士山保全にまつわるメッセージと富士山オフィシャルガイドのQRコードを印字。コインケースは、トイレ利用時に100円を払ってほしいというメッセージを込めました。



● 富士山インタビュー 第108弾・109弾・110弾リリース

今年は富士山に関わり、尽力されている3名の方のインタビューを公開しました。



渡辺守 写真家・富士山ガイド・料理人
6月4日掲載



蒲生由希 富士山好きがつくる富士山グッズ FuG 代表
8月28日掲載



浦郷 敬氏(うらごう たかし)

山梨県観光文化・スポーツ部富士山観光振興グループ富士山保全企画担当主査

12月3日掲載

●Instagram

700名以上のフォロワーアカウントに育ってまいりました。2026年度以降の啓蒙企画も鋭意継続していきます。



登山シーズンを中心に展開したキャンペーンがフォロワーの獲得につながりました。

・登山シーズン前に、安全な登山のための準備に関する情報を3本立てで投稿しました。閲覧数は、3つの投稿で16,478件となり、多くの方に情報を届けることができました。各投稿ごとの閲覧数は下記の通りです。

- ① 安全な登山のためにモノの準備:133,310件
- ② 安全な登山のためにカラダの準備:1,691件
- ③ 安全な登山のためにココロの準備:1,377件

また、安全な富士登山やマナーについて喚起するため、キャンペーンも2回実施しました。

・6月30日-7月13日:フォロワー&いいね!して下さった方5名にノベルティをプレゼントする企画では、10,933件の閲覧数、369件のいいね!、200件のコメント、27件の保存をいただきました。

・8月28日-9月10日:2025年度の登山者数を予想するキャンペーンでは、予想が正解の205,100人に近い上位10名様にNPOオリジナルのフォルダとシールをプレゼントしました。16,089件の閲覧数、249件のいいね!、54件のコメント、14件の保存をいただきました。



●ふじのくに交流会（10月29日開催）

毎年恒例、静岡県主催による“ふじのくに交流会”が、ANA インターコンチネンタル東京にて開催されました。冒頭は、鈴木知事による静岡県の各種現状報告、そして、県産物による飲食や展示などが振舞われ、たくさんの地元関係者や県関連事業者などが集っておりました。NPO 富士山会議からは、ノベルティの富士山ストラップをご提供させていただきました。



⑤2025年度の富士山登山に関して(両県からのご報告)

【山梨県からの報告】

- ・令和7年登山シーズンより、通行料4,000円の徴収を開始しました。あわせて、4月24日から通行予約システムの運用を開始し、初日には約2,000件の予約があり、その後も1日当たり平均約200件の予約が入るなど、円滑な運用が図られました。また、令和6年度の通行料収入を財源として、五合目規制ゲートは、仮設のものから、丈夫な鉄骨製のゲートへと整備されました。
- ・吉田口登山者数については、六合目安全指導センターにおけるカウンター計測で134,587人を記録し、前年度比7.4%の増加となりました。例年、開山期間72日のうち、登山者数が集中する時期を中心とした39日間のみ開設していた七合目救護所について、本年度は開山期間中、全期間にわたり開設し、登山者の安全確保体制を強化しました。また、レンジャーによる軽装登山者1,144人への指導を実施し、危険な登山行動の未然防止に寄与しました。軽装登山者に対する指導體制の強化については、各種メディアにおいても広く報道されたことで安全登山の普及啓発に一定の成果を上げ、本年度の弾丸登山者数は542人となりました。直近3年間の推移は以下のとおりであり、弾丸登山の大幅な抑制が実現し、山小屋関係者からも高い評価が寄せられています。
 - 2023年:15,287人
 - 2024年:708人(2023年度比約95%減)
 - 2025年:542人(2024年度比23.4%減)
- ・吉田ルート五合目に設置した規制ゲート等を通過した登山者は約15万人で、通行料収入は約6億円弱となり、前年度の約2倍に増加しました。これらの収入については、救護所機能の充実、安全指導員の体制強化、下山道に設置するシェルターの整備等に活用する予定です。
- ・一方で、家族連れ登山者の減少傾向が確認されました。今後は、子ども料金の設定等、利用者層の拡大に向けた制度設計について検討を進めていく予定です。

【静岡県からの報告】

- ・通行料を4,000円とし、午後2時から翌日午前3時までの時間帯において、山小屋の宿泊予約がない登山者の入山を禁止する登山規制を導入しました。事前登録および入山料の決済機能を備えた専用アプリ「静岡県FUJI NAVI」は7言語・8表記に対応し、外国人登山者への対応強化を図りました。アプリにより、昨年度まで任意であった入山料の徴収が確実にできるようになったことも大きな成果でした。また、アプリにはGPS機能による現在地把握や、気象情報のプッシュ通知機能が搭載されており、登山者の安全確保を支援するツールとして活用されました。
- ・本年度の入山者数は約103,000人となり、入山料収入は約4億円となりました。これらの収入については、五合目

における規制対応費をはじめとする登山規制関連経費として、約3億円を充当する予定です。

・家族連れの登山者が減少傾向にあるに加え、静岡県側の開山日が7月10日であったため、開山後の通行料が発生しない10日間における「駆け込み登山」が確認されたことが課題としてあげられました。これらの課題を受け、子ども料金の設定や山梨県側との開山日の統一などについて、改善に向けた検討を進めています。

・富士山世界遺産センターについては、遠山敦子氏が退任され、2025年1月1日付で稲葉信子氏が就任しました。

⑥ 富士山・富士五湖周辺プロジェクトについて

『山梨県新価値・地域創造推進局山梨・富士山未来課』では、(仮称)富士トラムの新しいパンフレット、および“富士山新交通システムに係る調査結果”が、昨年度作成されたグランドデザインである“ストーリーブック”などに並び、山梨県HP上に6月5日付で公表されました。

山梨県 HP : <https://www.pref.yamanashi.jp/fujisan/fuji-tram.html>



● (仮称)富士トラム(山梨県)

山梨県では、富士山麓から富士スバルライン五合目までの富士トラム導入に関して、事業内容の企画段階から民間事業者が参画し、様々な専門的知見を生かすことを想定するため、その参画への判断に資するものとして、現在基本計画を策定中。具体的には下記の通りです。

【基本計画検討内容】

- (1) 運行ルートや必要な施設の検討 (①運行ルート、②エネルギー関連施設、③その他施設や設備)
- (2) 事業性・採算性の検討 (①運行スキーム ②事業主体の体制、官民の役割分担 ③資金調達)
- (3) 関連法令の検討
- (4) 検討会議用資料の作成 (①富士トラム事業化検討会、②富士トラムネットワーク構想研究会(仮称))

【業務内容】

(1) 現状把握と課題整理

- (①上位計画、関連計画の整理、②計画地の現況調査分析、③国内外の類似事例分析、④ 上記①②③を踏まえた課題整理)
- (2) 将来像・基本目標の精査
- (3) 利用者が望む体験・活動の検討
- (4) 条件の整理 (将来の受入人数、既存建物の取扱い、防災対策(シェルター機能含む)の整理など)
- (5) 基本目標を実現するための整備内容・対策の方向性
- (6) 五合目再整備のゾーニング検討、将来像イメージ図の作成
- (7) 整備に関する全体スケジュール、実施体制の検討、今後の課題整理

⑦ 富士山基金事業と富士山基金への寄付

富士山基金は 2006 年 7 月 1 日に設立されました。幅広い募金活動を通じて、世界文化遺産富士山の文化的景観を未来に継承するための運動を、地元静岡・山梨はもちろんのこと広く全国にアピールし、富士山の保全管理活動を国・地方自治体だけに頼るのではない、新しい官民一体の運動体とすることで、国民の環境や日本の文化に対する意識改革につなげることを目的としています。

2024 年度末富士山基金残高: 14,527,096 円

2025 年度富士山基金募金額: 4,357,250 円(4,346,227 円と利息 11,023 円)

2025 年度富士山基金取崩額: 12,679,298 円

2025 年度累計残高: 6,205,048 円

1. 2025 年度富士山基金を利用した PR/啓発等の活動

1)ホームページおよび SNS での PR 推進

さまざまな分野で富士山に関わる活動が続いている方々に登場していただき、富士山との出会い、関わり方とその歴史、富士山への思い等を紹介する富士山インタビューをはじめとするホームページのコンテンツ制作 や SNS での情報発信を推進しています。

金額: 3,529,798 円

2)ノベルティ制作および提供による啓蒙促進

富士山保全の啓蒙メッセージを盛り込んだノベルティ制作を行い、富士山関連事業者や保全団体、イベントやキャンペーン等を通して、幅広い層に提供しました。

金額: 4,811,513 円

3)「ふじさんゼロゴミアクション」の推進

山梨県・静岡県の富士山麓の清掃活動を、1 月から 12 月までの期間に、合計 12 回実施しました。

金額: 2,265,703 円

2. 2025 年度 主な富士山基金寄付

(単位: 円)

寄付者	金額
静岡銀行株式会社	40,534
株式会社ベネフィット・ワン	62,000
株式会社美好商会	10,000
リゾートトラスト株式会社 エクシブ山中湖	88,900
ルノー・ジャポン株式会社	141,868
株式会社 東海コクボ	690,000
株式会社中川政七商店	102,695
菅原工芸硝子株式会社	20,230
米久	2,776,000
good by market	30,000
新橋製紙株式会社	50,000
(株)FUJISEY	290,000
渡邊 由紀子	10,000
西川 運輔	3,000
株式会社 フィールド	5,000
タナカ ナナコ	6,000
山上 康晋	20,000
合計	4,346,227

(敬称略/順不同)

* 寄付者数: 17

● **感謝状 対象企業(者)リスト(2025年12月時点)**

感謝状規定に定める下記の条件を満たす個人及び法人の方に、感謝状を贈呈させていただきました。
(敬称略)

.....

感謝状規程により以下の個人、法人に感謝状を贈呈します。

感謝状は次の者に授与する。

1. 寄付金の一時または累計額が1,000万円以上の個人、法人。
2. 10年以上継続して寄付をいただいている個人、法人。
3. 寄付または富士山の保全に資する活動に対して、理事長、運営委員長等が特に推薦する個人、法人。

.....

[1・2に該当]

(株)富士山、OAG 税理士法人、さくら共同法律事務所、JR東日本、(株)丸久物産、静岡銀行(株)、不二ビューティ、蓑田秀策、分林保弘

[2に該当]

(株)ケイミックス、イー・ビー・アイ・マーケティング、朝霧ハイランド(株)、
(株)アトム、はごろもフーズ(株)、グッバイマーケット、菅原工芸硝子(株)、山梨日野自動車(株)、
(株)ベネフィット・ワン

[3に該当]

レクティオデザイン、キャピタル・アドバイザー、(株)オープンハウスグループ